

東海大学松前記念館リニューアルオープン第1回企画展 | 東海大学アンデスコレクション文理融合研究成果報告

古代アンデスの

音とカタチ

—— 先端科学で解き明かす東海大学コレクション ——

入場
無料

2022年
会期 11月1日(火) ~ 3月31日(金)
開場時間 10:00~17:00 (入館は16:30まで) ※延長の可能性あり

2023年
会場 湘南キャンパス松前記念館
(歴史と未来の博物館) 平塚市北金目4丁目1番1号



古代アンデスの

音とカタチ

— 先端科学で解き明かす東海大学コレクション —



科研費
KAKENHI

本企画展は日本学術振興会科学研究費補助金による研究課題「笛吹ボトルの構造研究と音響解析から探る古代アンデスの水に関わる世界観」(課題番号22H04453)の研究成果を含むものである。

水や空気を入れると音が鳴る動物や人をかたどった「笛吹ボトル」、鳥の骨で作った笛、極彩色の鳥の羽で作ったポンチョ——。古代アンデスの生活を彩ったこうした遺物の多くは、作り方や実際に奏でた音など、そのほとんどが謎に包まれています。東海大学文明研究所とマイクロ・ナノ研究開発センターでは2017年から、各地で活躍する気鋭の研究者と連携しながら考古学・物理学・画像工学・情報科学などの英知を結集した文理融合型研究を実施し、この謎の解明に挑んできました。

今回の展示会では、これまでの研究の成果を紹介。東海大学「アンデスコレクション」※所蔵資料の中から、「笛吹ボトル」やそのレプリカ、研究によって明らかになった「土器の奏でる音」を展示するほか、レプリカを実際に手に取り、音を楽しめる「ハンズオン展示」も実施します。そのほかにも、ナスカ文化の骨製縦笛やガラス球に関する研究、資料のデジタルアーカイブとオンラインミュージアム、研究成果を活用した地域連携活動の成果、今年度新たに寄贈を受けた布製品などを紹介します。

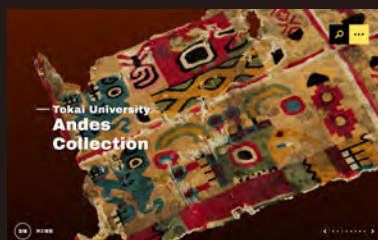
※紀元前14世紀から紀元後16世紀までの長期にわたって南米で発展した「アンデス文明」において、制作された土器や布製品など約1900点で構成されており、国内有数の規模を誇っています。

- 【主催】 東海大学文明研究所 東海大学マイクロ・ナノ研究開発センター
- 【会期】 2022年11月1日(火)～2023年3月31日(金)※延長の可能性あり
- 【休館日】 日曜日、祝日、大学の特別な休日は開館
- 【時間】 10:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 【入場料】 無料
- 【会場】 湘南キャンパス松前記念館(歴史と未来の博物館)
(平塚市北金目4丁目1番1号)
- 【交通】 小田急線(新宿より快速急行約60分、小田原より約25分)「東海大学前」駅下車徒歩約15分、または『秦野駅行き』『下大槻団地行き』バス(約5分)で「東海大学北門」下車すぐ。またはJR東海道線「平塚」駅下車『東海大学行き』または『秦野駅行き』バス(約30分)で「東海大学正門前」下車徒歩約5分
https://www.u-tokai.ac.jp/info/traffic_map/index.html#shonan
- 【問合せ】 松前記念館(東海大学 歴史と未来の博物館)
TEL:0463-58-1211(代表)



地図はこちら

Information



東海大学アンデスコレクションウェブサイト公開中です。

<https://andes.civilization.u-tokai.ac.jp>

コレクションのうちえりすぐりの資料を公開。

遺物のX線CT画像や3D画像などもお楽しみいただけます。

※資料検索画面で「X線」「3D」などのキーワードを入力すると、X線CT画像や3D画像が一覧でご覧になれます。



スマートフォンでも
快適に!